

## 2021年コレクション展Ⅱ 2021年7月17日(土)–12月26日(日)

前期：7月17日(土) – 9月26日(日)  
後期：10月9日(土) – 12月26日(日)

兵庫県立美術館のコレクション展では、1年をⅠ期、Ⅱ期に分け、当館ならではの名品を順次紹介するとともに、特定のテーマでコレクションに新たな光をあてる「特集」、館外の作品も交えて構成する「小企画」を開催しています。

2021年第Ⅱ期の特集では、そもそも各作品がなぜこの美術館にあるのか、収集活動の裏側に注目します。今年設立40周年を迎える伊藤文化財団からの寄贈作品や、昨年、美術館に來たばかりの新収蔵品を中心にをご紹介します。会期の前半には、毎年恒例の手で触れて作品を鑑賞できる小企画「美術の中のかたち」展も開催します。

**展示構成：**小企画 「美術の中のかたち—手で見える造形 東影智裕展—触知の森」【常設展示室4(前期)】  
特 集 「なぜここにいるの—伊藤文化財団寄贈作品・新収蔵品を中心に」【常設展示室1~3】  
「日和崎尊夫を中心に—ビュランの世界、詩画集の世界—」【常設展示室4(後期)】  
「近現代の彫刻」【常設展示室5】  
「近代の日本画・洋画」【常設展示室6】  
【小磯良平記念室】【金山平三記念室】

### 小企画



(1) 東影智裕《視界 camel d-007》2013年 作家蔵

#### 「美術の中のかたち—手で見える造形 東影智裕展—触知の森」

出品点数:12点を予定

出品作家:東影智裕(ひがしかげともひろ)

イベント:アーティスト・トーク「私の作品について」

7月31日(土)14:00~(約60分) 開場13:30

レクチャールームにて、定員40名、聴講無料、

要コレクション展Ⅱ観覧券、当日先着順

※兵庫県立美術館「芸術の館友の会」会員優先席あり

### 特集

#### 「なぜここにいるの—伊藤文化財団寄贈作品・新収蔵品を中心に」

出品点数:当館所蔵作品の中より、伊藤文化財団からの寄贈作品・新収蔵をはじめ  
およそ110点を予定

イベント:(1)学芸員による解説会

9月18日(土)、10月16日(土)、11月20日(土)

各日16:00~(約45分)

レクチャールームにて、定員40名、聴講無料、当日先着順

(2)こどものイベント

オンラインで実施予定

詳しくは当館webサイトをご覧ください



(5) ジャン・アルプ《陽気なトルロン》1965年 昭和57年度財団法人伊藤文化財団寄贈

## 開催情報

### 2021年コレクション展Ⅱ

会期 2021年7月17日（土）－12月26日（日）

前期：7月17日（土）－9月26日（日） ※9月27日（月）－10月8日（金）は展示替えのため休室

後期：10月9日（土）－12月26日（日）

開館時間 午前10時から午後6時（特別展開催中の夜間開館については当館Webサイトをご確認ください）

※ 入場は閉館の30分前まで

休館日 毎週月曜日 ※8月9日（月・振休）は開館、翌10日（火）休館 ※8月30日（月）－9月6日（月）はメンテナンス休館

会場 兵庫県立美術館 常設展示室（〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通1-1-1 TEL:078-262-1011 <https://www.artm.pref.hyogo.jp/>）

### 観覧料

区分	当日	団体 (20名以上)	特別展との セット料金
一般	500円	400円	300円
大学生	400円	300円	200円
高校生以下	無料	無料	無料

### [その他割引適用料金]

区分	当日	団体 (20名以上)	特別展との セット料金
70歳以上	250円	200円	150円
障がい者 一般	100円	100円	50円
大学生	100円	50円	50円

※2021年コレクション展Ⅱ全室をご覧いただけます。

※一般以外の料金には、証明できるものご提示が必要です。

※毎月第2日曜日は公益財団法人伊藤文化財団の協賛により無料です。

※団体（20名以上）でご鑑賞いただく場合は1か月前までのご連絡をお願いいたします。

※障がいのある方1名につき、介護の方1名は無料です。

「美術の中のかたち」展会期中は障がいのある方は無料です。

主催 兵庫県立美術館

協賛 公益財団法人伊藤文化財団、**サンラティタワ-神戸**（株式会社ハーフ・センチュリー・モア）

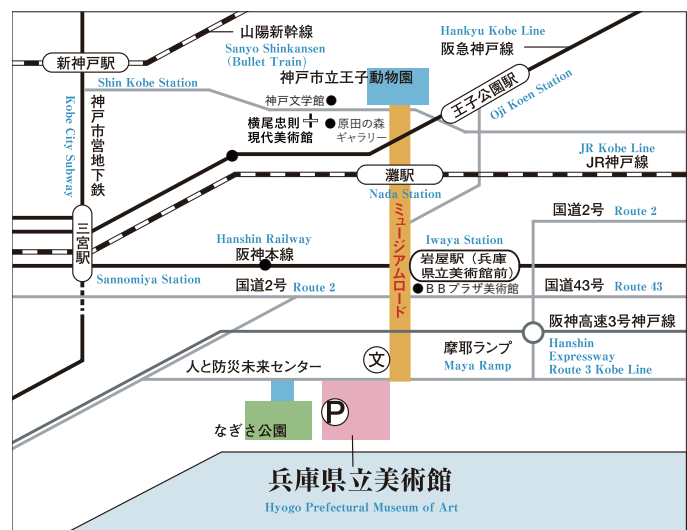
後援 小企画 兵庫県社会福祉協議会、神戸市社会福祉協議会

企画担当 小企画「美術の中のかたち一手で見る造形 東影智裕展一触知の森」：岡本弘毅／橋本こずえ

特集「なぜここにいるの-伊藤文化財団寄贈作品・新収蔵品を中心に」：江上ゆか／尾崎登志子／西田桐子

### 【交通案内】

- ・ 阪神岩屋駅（兵庫県立美術館前）から徒歩約8分
- ・ JR神戸線灘駅南口から徒歩10分
- ・ 阪急王子公園駅西口から徒歩約20分
- ・ JR三ノ宮駅南から神戸市バス（29、101系統）阪神バスにて約15分  
HAT神戸方面行き「県立美術館前」下車すぐ
- ・ 地下駐車場（乗用車80台収容・有料）



お問い合わせ 兵庫県立美術館 広報担当 細田・東原・宇高  
TEL: 078-262-0905（直通） FAX: 078-262-0903 Email: [press@artm.pref.hyogo.jp](mailto:press@artm.pref.hyogo.jp)

小企画「美術の中のかたち—手で見る造形 東影智裕展—触知の森」の見どころ【常設展示室4（前期）】

31回目となる「美術の中のかたち—手で見る造形」展では、兵庫県在住の作家 東影智裕（ひがしかげ・ともひろ）氏の作品を展示します。1978年高砂市に生まれた東影氏は、美術学校在学中には特に版画を学びましたが、卒業後は、主に立体作品を精力的に制作してきました。動物の頭部のような作品は、皮膚や毛穴や体毛などが極めて精巧に表現されています。一方、その精緻な描写は、時に蝕まれた皮膚やその内部の肉体の表現を伴い、動物たちの漆黒の瞳の表現と相まって、鑑賞者に深い洞察をもたらします。

東影氏は、自身の作品制作は自らの身体的、触覚的な経験の積み重ねであると言います。本展では、東影氏のこだわりや経験の結実である作品に直接に触れていただくことで、作家の造形思考や造形行為にまで想像を巡らせていただければ幸いです。なお、本展は令和2年度に開催予定でしたが、コロナウィルス流行の影響により、約1年間延期して開催します。

展示予定作品：



(1) 東影智裕《視界 camel d-007》2013年 作家蔵



(3) 東影智裕《視界 sight hound B-003》2011年 作家蔵



(2) 東影智裕《視界 deer》2015年 作家蔵



(4) 東影智裕《侵食 I》(部分) 2013年 作家蔵

作家プロフィール：東影智裕（ひがしかげともひろ）

1978年高砂市生まれ、現在姫路市在住。美術学校在学中には特に版画を学ぶ。卒業後は、主に立体作品を精力的に制作してきた。国内外の数々の展覧会にこれまでに参加し、作品を発表。2017年には、五島記念文化財団の助成を得て、海外研修としてポーランドに一年間滞在した。動物の頭部のような作品は、皮膚や毛穴や体毛などが極めて精巧に表現されるだけでなく、瞳の表現やわずかな肉体の質感や動きを伴うことで、我々に熟考を促す力強さを持ち合わせている。また、近年は、古い建物を舞台にしたり、自然界に存在する流木などを組み合わせて展示している。

**特集「なぜここにいるのー伊藤文化財団寄贈作品・新収蔵品を中心に」の展示構成【常設展示室1～3】**

展示室に並ぶ作品たちは、なぜ、今ここにいるのでしょうか？

兵庫県立美術館のコレクション展II「特集」では、コレクションの成り立ちや作品の来歴など、収集活動の裏側に注目しつつ、今年設立40周年を迎える伊藤文化財団からの寄贈作品や、昨年度、美術館にやってきたばかりの新収蔵品を中心に展示します。

**1 ここにいる人、いない人。**

みんなが見たいと思う良い作品たちのいる場所、それが美術館です。とはいえ、単に良い作品というだけなら、世の中には山ほどあります。この美術館にいる人といない人との分かれ目は、どこにあるのでしょうか。まずは当館の収集方針をご紹介します。

**① 巨匠を間近に**

当館の前身・兵庫県立近代美術館の開館は1970(昭和45)年。西洋美術の「本物」に触れられる場は、まだまだ限られていました。

そこで当館がとったのは、一点豪華主義の逆。彫刻や版画はひとつの型や版から複数の「本物」が出来る分、お値段が安い。印象派の有名な油絵一枚を買う代わりに版画や彫刻をたくさん買い、美術の流れがある程度わかるコレクションを目指したのです。



(6) オーギュスト・ロダン《永遠の青春》1884年 昭和47年度購入

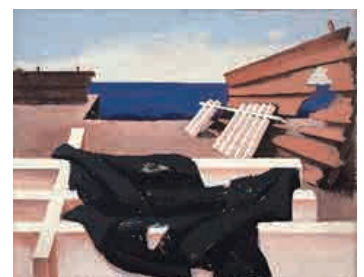


(7) 神中糸子《揖保川風景》昭和49年度神中茂次氏寄贈

**② ひょうごの美術館だから。**

日本にある県立の近代美術館ですから、日本の近代美術、なかでも県ゆかりの作家という視点は欠かせません。

洋画の黎明期の先駆者(神中糸子)から、惜しくも若くして戦死した前衛画家(浅原清隆)、戦後、デザインと絵画をまたいで活躍した異才(今村七郎、横尾忠則)まで…。他所ではなかなかお目にかかれない、ひょうごならではの作品たちが、ここには集まっています。



(8) 浅原清隆《敗北》1935(昭和10)年 平成10年度渡辺美枝子氏寄贈

**③ 時代を共に生きる**

1986(昭和61)年度、「山村コレクション」が当館所蔵品に加わります。県下の企業家・山村徳太郎(1926～1986)が、自分と同時代を生きる作家たちの作品を集めた前衛美術の一大コレクションです。

このコレクションの収蔵をきっかけに当館の収集方針には、私たちと時代を共に生きる作家たちによる「現代美術」という新たな柱が加わりました。



(9) 吉村益信《豚・pig lib》1971(昭和46)年 山村コレクション 昭和61年度購入

## 2 伊藤文化財団 40 年の寄贈作品

作品がどのように美術館にやってくるのか、集め方に注目すると、「買う（購入）」「いただく（寄贈）」「預かる（寄託）」の 3 つに分かれます。うち「いただく」の特別な例が、伊藤文化財団の寄贈作品です。館にふさわしい作品を持ち主から財団が購入し寄贈するという方法で、1981（昭和 56）年の財団設立以来（2012/平成 24 年に公益財団法人に移行）、40 年の間に 951 点もの作品が当館にやってきました。

※伊藤文化財団の寄贈作品は、この章以外にも展示しています。

### ① 長きご縁があつてこそ

芦屋にアトリエを構えた洋画の巨匠・小出檜重や、同じく芦屋を拠点に前衛美術グループ具体美術協会を率いた吉原治良など、当館コレクションに欠かせない重要な作家やグループのいくつかは、40 年にわたる息の長いご支援のもと、重点的な収集が実現しています。



(10) 小出檜重《裸女》1925（大正 14）年 平成 30 年度公益財団法人伊藤文化財団寄贈

### ② 歴史を語る名品

伊藤文化財団からは、日本の近代美術史を語る上で欠かせない数々の名品も寄贈を受けています。

天使のような翼を持つ洋折衷の本多錦吉郎《羽衣天女》は、日本に洋画の技術が移入されて間もない明治期ならではの作品です。長らく所在不明でしたが、1990（平成 2）年、当館の「日本美術の 19 世紀」展で、ほぼ一世紀ぶりに公開されました。



(11) 本多錦吉郎《羽衣天女》1890（明治 23）年 平成 11 年度財団法人伊藤文化財団寄贈

## 3 作品たちの数奇な人生

美術館に入る前、作品たちは、どこでどのような人生を歩んでいたのでしょうか。北村四海の《橘媛》は、神戸・御影に 1935（昭和 10）年に建てられた邸宅の敷地内にありました。設置までの詳しい経緯は不明ながら、おそらく戦前からあったと思われます。戦時中の金属供出と阪神・淡路大震災を生き延び、当館にやってきたのです。



(12) 北村四海《橘媛》1915（大正 4）年（原型発表）平成 21 年度野村殖産株式会社寄贈

## 小企画・特集以外の展示

### 「日和崎尊夫を中心に～ビュランの世界、詩画集の世界～」【常設展示室4（後期）】

日和崎尊夫は、明治時代に興隆をみて以来下火になっていた木口木版画を現代に再興させた最大の功労者です。本展示では、ご寄贈により新しく収集した日和崎尊夫作品を中心に、弟子にあたる柄澤齋の木口木版画、木原康行と東貞美のエングレービングを展示します。



日和崎尊夫《KALPA -69》1969(昭和44)年  
令和2年度村松信也・千代氏寄贈

### 「近現代の彫刻」【常設展示室5】

ロダン以降、現代までの多様な彫刻作品を紹介します。

### 「近代の日本画・洋画」【常設展示室6】

日本画は特集にあわせ、昨年度の新収蔵品と伊藤文化財団寄贈作品を中心に、橋本関雪、村上華岳、水越松南、岡本神草の作品を紹介します（前期、後期ですべての作品を展示替えします）。

洋画は当館コレクションを代表する名品を中心に、明治から戦前までの作例を展示します。

### 【小磯良平記念室】【金山平三記念室】

小磯良平記念室では、画家が得意とした気品あふれる女性像を中心に展示します。ヨーロッパ滞在を経て自身の画風を確立した小磯は、生涯にわたって「身体をどう表現するか」という課題に取り組みました。その結果生み出された作品には、正確なデッサン力と西洋絵画を真摯に学んだ小磯の姿勢が反映されています。

金山平三記念室では、画家の旅した地の風景とそこで生活を営む人々を描写した作品を集めました。風景画の名手として知られる金山ですが、その風景の中に溶け込む生き生きとした人物表現も、金山作品の大きな見どころの一つです。特集にあわせて、寄贈による新収蔵品も展示します。



金山平三《京城郊外》1941(昭和16)年  
金山らく氏寄贈(昭和45年度管理換)

# 2021年コレクション展Ⅱ 広報画像申込書

e-mail : [press@artm.pref.hyogo.jp](mailto:press@artm.pref.hyogo.jp) / FAX : 078-262-0903 兵庫県立美術館 企画広報担当宛

ご希望画像の作品番号にチェックを入れ、媒体情報をご記入の上、本紙を e-mail または FAX にてお送りください。申込確認に数日かかる場合がございます。あらかじめご了承ください。

- 1 東影智裕 《視界 camel d-007》 2013 年 作家蔵
- 2 東影智裕 《視界 deer》 2015 年 作家蔵
- 3 東影智裕 《視界 sight hound B-003》 2011 年 作家蔵
- 4 東影智裕 《侵食Ⅰ》(部分) 2013 年 作家蔵
- 5 ジャン・アルプ 《陽気なトルソ》 1965 年 昭和 57 年度財団法人伊藤文化財団寄贈
- 6 オーギュスト・ロダン 《永遠の青春》 1884 年 昭和 47 年度購入
- 7 神中糸子 《揖保川風景》 昭和 49 年度神中茂次氏寄贈
- 8 浅原清隆 《敗北》 1935(昭和 10) 年 平成 10 年度渡辺美枝子氏寄贈
- 9 吉村益信 《豚・pig lib;》 1971(昭和 46) 年 山村コレクション 昭和 61 年度購入
- 10 小出檜重 《裸女》 1925 (大正 14) 年 平成 30 年度公益財団法人伊藤文化財団寄贈
- 11 本多錦吉郎 《羽衣天女》 1890 (明治 23) 年 平成 11 年度財団法人伊藤文化財団寄贈
- 12 北村四海 《橘媛》 1915 (大正 4 年) 年 (原型発表) 平成 21 年度野村殖産株式会社寄贈

●貴媒体の情報をご記入ください。

○媒体名(番組・雑誌名等):

○媒体種:新聞・雑誌・ミニコミ・TV・ラジオ・WEB・その他( )

○掲載・放送予定日: ○参考 URL

○原稿確認予定日:

※WEB 掲載の場合、いずれかに○をつけてください。コピーガード対応 可 ・ 不可

●申請者の情報をご記入ください。

○貴社名:

○所在地: 〒

○ご担当者名:

○メールアドレス:

○電話番号:

●読者・視聴者プレゼント用招待券: 組 名分を希望(最大5組10名まで。本展を媒体でご紹介いただける場合に限りです)

【画像使用に際しての注意事項】

- 作家名、作品名、制作年、クレジットなどを記載してください。
- 作品画像の加工(着色、トリミング、文字載せなど)はできません。
- 基本情報、画像使用の確認のため、ゲラ・原稿の段階で「企画広報担当」までお送りくださいますようお願いいたします。
- 掲載媒体を1~2部、もしくはURL、同録(DVD、CD)を「企画広報担当」宛にお送りください。
- 画像使用は本展覧会の紹介用のみとさせていただきます(会期終了まで)。
- 再放送、転載など二次使用をされる場合には、改めて申請願います。

## 兵庫県立美術館 取材申込書

取材をご希望の方は下記にご記入のうえ、  
**取材希望日の3営業日前までに**  
メールまたはFAXにてお申込みください。

お申込日                      年                      月                      日

メール送付先: [press@artm.pref.hyogo.jp](mailto:press@artm.pref.hyogo.jp) / FAX送付先: 078-262-0903

### 取材内容

希望日時	第1希望	年	月	日	曜	時	分	～	時	分
	第2希望	年	月	日	曜	時	分	～	時	分
	第3希望	年	月	日	曜	時	分	～	時	分
希望場所										
企画内容										
カメラ撮影	<input type="checkbox"/> あり	スチール	台	ムービー	台	三脚/脚立	台			
	<input type="checkbox"/> なし									
取材人数	人	取材時の代表者名								
媒体種別	<input type="checkbox"/> テレビ	<input type="checkbox"/> ラジオ	<input type="checkbox"/> 新聞	<input type="checkbox"/> Web	<input type="checkbox"/> その他( )					
媒体名										
掲載・放送 予定日時	<input type="checkbox"/> 掲載	年	月	日	曜	時	分			
	<input type="checkbox"/> 放送									

ご連絡先	担当者名	
	社名・部署名	
	住所	
	電話番号	
	FAX	
	E-mail	

- \* 企画内容によってはご要望に沿えない場合もございますので、あらかじめご了承ください。
- \* 作品の著作権保護や出展作品のクレジット確認等のため、展示風景や作品の画像使用にあたっては、紙面掲載、番組放送前に原稿を確認させていただいております。校正段階での原稿・映像等を事前に広報専用メールへご提出ください。
- \* 掲載媒体を1～2部、もしくはURL、同録(DVD、CD)をお送りください。

### 〈取材についてのお問い合わせ〉

兵庫県立美術館 企画広報担当(細田・東原・宇高)  
〒651-0073兵庫県神戸市中央区脇浜海岸通1-1-1  
TEL:078-262-0905 FAX:078-262-0903 Mail:press@artm.pref.hyogo.jp